

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



インターン生と国会へ

大潟村の米作を見学しました

お米を消費者に直接販売している「黒瀬農舎」(秋田県大潟村)を訪ね、その農場を始め、広域で秋田県大潟村の圃場見学をして回りました。この大潟村は、日本で 2 番目に大きな湖であった八郎潟を干拓し、広大で整理された圃場を作り上げ、全国から入植者を募り、人工的に生み出されました。その入植者は、新興住宅地のような住宅街に集まって住み、それぞれの農場には自動車で行き来し、現地では大型農機や器具を使い、日本では珍しい大規模農業を取り入れてきました。

ある時、国内では米あまりの時期が訪れ、米作農家が転作や減反を強いられる時代がやって来ました。この大潟村の入植者は、財産を費やしてこの地に越してきたわけであり、しかも、大規模農業をするために非常に高価な機械を購入しており、自らの減収となる施策に全員が素直に従わないという事態を生み出しました。とりわけ、この黒瀬農舎の黒瀬正さんは、先頭だって国の減反政策(食料管理法)に個人の力で対抗し、自由作付け、自主販売を掲げて今に至っています。そして、行政の圧力が強かったにもかかわらず、多くの農家がこの黒瀬さんの行動に続きました。今では、国の方針に従う農家もあれば、そうでない農家も多数あるというのが村の中の実情です。

私達が日頃見ている首都圏の農地の様子とはまるで広さが異なっており、ここでは地平線が伺えると言っても過言ではない土地でした。また、広大さは北海道の農地も同じですが、農家が一ヶ所に集中して居住区を作っている点が、他の日本にはない農村状況でした。

しかし、この大潟村にも転機が訪れている様子でした。黒瀬さんは、「今では、30ha 以上に農地を集約して農業を目指す他の地域も出現しており、いつまでも大潟村が大面積を活かした農業をやっているとは言えない。これからの大潟村は手間暇をかけた無農薬・有機肥料の路線を全面的に取り入れることが必要だ」と展望を語ってくれました。現に、この黒瀬農舎では、遺伝子組み替え作物は排除し、30ha の農場の半分を無農薬・有機肥料の田んぼ、後の半分を 1 回の除草剤使用+有機肥料の田んぼとされていました。



さて、これから全国の米作地帯では、秋の収穫に向けて一層忙しくなる季節です。福島県域を中心に、あの福島第 1 原発の爆発事故で発生した放射性物質で土壌が汚染された土地でもお米が作付けされており、果たして国がその収穫の検査態勢の実施においてどこまで信頼できるかが大きな懸念材料となっています。牛肉の出荷では汚染牛を出し、信頼と信用を失いました。お米の出荷、販売流通において、遙かに信頼できるルートの確立が消費者の目標になるでしょう。少なくとも、私は自分で選択して購入する道を進めます。
提携米・黒瀬農舎 <http://www.kurose.com/>

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ(市議会議員)

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

所属: 志政クラブ
〒194-8520
東京都町田市
中町 1-20-23
☎042-724-2127



双方向の情報交流

子どもフェアー議会見学

町田市議会で「子どもフェアー議会」が開催された。2部構成で、小学生が議会の雰囲気を経験する。低学年には、「動物は会話をしているか?」、高学年には「節電の努力をしているか」という議題が与えられ、それについて、賛成、反対で議論が戦わされた。

低学年の部で、欧米型の主張の仕方が多く用いられていたことに驚いた。日本型の「理由→結論」ではなく、欧米型の「結論→理由」の方法で、文章の構成を造られていたのだ。

実際の議会では、時間制約と分かりやすさを鑑み、このような話し方をするのだというが、小学生もそうであったのは学校で習ったためなのか。そうでなかったとしても「日本型の一方的に話しを聞くだけでない、欧米型のキャッチボール式授業」が推進される、等欧米的教育、思考の普及が試みられているのが現状だろう。



子どもフェアー議会が開催された会場(町田市議会本会議場)の入口にて撮影(2011.7.27)

しかし一方、依然として「出る杭は打たれる」社会、大学生が卒業後留学やらに出る等、人とは違うことをし、いざ就職しようとしても世間の風は冷たい、そんな従来の日本社会のあり方が未だにある。

明治維新の際も、庶民の意識が変化しないまま表面の制度だけ欧米化したため弊害があったと聞くが、今の、子どもへの教育は欧米を志向しても、それを取り巻く環境は昔ながらの日本型、という「矛盾」も、それと同じ性質をはらんでいるのかもしれない。

ここで欧米、日本型、どっちが優れているか、等を述べるつもりはない。しかし、今回の議論を聞き、漠然とそんなことを考えた。

記: 第 28 期研修生 小宮 春菜
国際基督教大学 (ICU) 教養学部 3 年生

研修生の募集について

第 28 期には、菌部 諒さん(東京都市大=旧 武蔵工業大学 3 年生)もいます。

新たに、第 29 期研修生を募集中です。一般には体験期間は夏季や春季の休暇期間を利用していますが、通常の学業期間でも週 1~2 度の日程を決めて参加することが可能です。

募集要綱や研修体験者のリストやレポートは下記を参照してください。検索 → (インターンリスト&レポート 吉田つとむ) が便利です。

<インターンレポート記録アドレス>

<http://j-expert.jp/tosei/int/list/main.html>

詳しい内容の問い合わせは、下段のメールアドレスに行ってください。

掲載記事、あるいはご関心ごとを、下記の FAX かメールアドレスまでご送信ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ 第 3 回定例会は 8 月 23 日(火)午前 10 時の議会運営委員会よりスタート。8 月 30 日(火)本会議・提案理由説明、9 月 2 日(金)午後 10 時より一般質問、同 5 日・6 日・7 日等が続く。

ご連絡、お問い合わせは電話・FAX、メールにて。Mail: yoshidaben@gmail.com